

# New Face

## 新入部員紹介



東部地区  
Training Plus+  
代表兼パーソナルトレーナー  
三橋 弘明さん

初めまして。  
この度、川越商工会議所青年部に入会させて頂きました  
Training Plus +代表兼パーソナルトレーナーの三橋 弘明(みつはしひろあき)と申します。

1973年生まれ、兵庫県出身です。  
皆様は健康に自信がありますか？  
恥ずかしながら私は整体師だった30代の時に脂肪肝になりました。

電車では長時間立ってられないし、毎日お菓子を食べている。。。運動不足と不摂生、当然といえば当然の結果でした。  
しかし、これを機に痛みの改善だけでなく、健康な体、いつまでも動ける体をお客様に提供するにはどうすれば良いのか？を考えるようになりました。それには運動と食事も必要だと感じ、体調管理重視のトレーニング法と正しい栄養学を学び、まずは自分で実践することになりました。

実践して1年後、脂肪肝は治り、体も絞れ、電車でも長時間立っても平気になりました。その経験を活かし現在では体調管理やダイエットのためのトレーニング指導をさせて頂いております。

皆様や地域の方々の健康維持に少しでもお役に立てればと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

## 東部地区



合同会社North Touch Aulund JP  
マーティン・アウルンさん



有限会社スズキワールドライフ埼玉  
通訳  
鈴木 悦子さん

初めまして。  
このたび、川越商工会議所青年部に入会させて頂きました「合同会社North Touch Aulund JP」のマーティン・アウルンです。3年前に、ノルウェーから来ました。この3年間は、たくさんの人々と交流を持つことが出来ました。また、日本の事を以前より理解できる意味でもとても大事な3年間となりました。

私は以前より日本に来てやってみたいビジネスがありました。それは、日本の文化や日本人々に触れることでどんどん大きくなりました。そしてようやく、「North Touch Aulund JP」という会社を立ち上げました。この「North Touch」という名は、「北欧を感じてみて(Touch of North)」という意味があります。

日本では、そのデザイン性とポップカルチャーの両方で「北欧」人気があります。私はそのスカンジナビア(北欧)の伝統を私のビジネスに取り入れることだと思います。まずは北欧のアンティーク・ビンテージ・雑貨・北欧のコーヒーを提供することから始めます。そして、日本とノルウェーの架け橋を担う一人になりたいです。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

# PR TIME

南部地区  
トミーエンタープライズ  
富澤 貴明さん



お世話になってます。  
トミーエンタープライズ富澤です。  
我が社はスクールとタレント派遣会社を運営しています。スクールでは、ギター、ベース、サックス、ピアノ、ポーカー、英語、韓国語、マジックを川越や志木のスクールで教えています。タレント派遣では、マジシャン、ももたけ、バルーン、催眠術、ジャグラー、大道芸、占い師、似顔絵、ダンサーなどを全国に派遣させて頂いています。  
我が社で今一番売り出したのが、ドラマジックという「ドラマ」と「マジック」を掛け合わせた、新しい演出のマジックショーです。

ドラマジックは、「マジックを芸術の域に」というコンセプトの元、スタートしました。我が社が考える「芸術」は3つのポイントがあります。

1 テーマがある事 2 心から感動する事 3 何度も見たいと思う事  
マジックにはこの3つがありませんでした。その証拠に「タネ」は「どうなるの」と、お客様は聞いてきます。もしマジックが3つのポイントを押さえて入れれば「タネ」なんかに興味がいけないと考えました。ドラマには「テーマ」があり、心が感動し、何度も見たいという要素があるので、「これにマジックを組み合わせる事」により、「マジックを芸術に域」に出来ると考えました。僕が何故マジシャンになるかと思いつき、その中で挫折や苦難、そして夢を叶えた実績があります。これをドラマにしました。  
それがドラマジックです。乞うご期待！

# 編集後記

数年前にノーベル賞を受賞された大村智さんのインタビュー番組が、先日再放送されていました。  
番組内で印象に残ったのは、「偶然と必然」の例えでした。大発見に結びついた菌の採取は全くの偶然だったそうです。それを「常に求めている者でなければ出会わない偶然」とのことです。努力し続けている者の「偶然」は「必然」であって、「求めよさらば与えらん」とのことでした。

野球選手が相手投手の球筋を読む力は「勘」と表現されることがあります。しかしながら、勘とは猛烈な練習から生まれる経験知のことに他なりません。天才の思いつきのようである、裏には人の何倍もの練習と膨大なデータがあります。

ノーベル賞学者の「勘」は膨大な勉強に裏打ちされていて、それを人に見せないだけだったということだと思います。

社会人一年目の頃からずっと疑問に思っていたことの一つに、人を惹きつける人物像を持つ人たちの共通点があります。それは、話が具体的に分かりやすく、平易な言葉で話す人が多いような気がします。これが本物の知者と言つたのなと感じました。

情報発信室 岡田勝也

川越商工会議所青年部  
登録事業者数 215社  
(平成30年8月現在)

- 川越商工会議所青年部 会報誌『鐘の音』第61号 平成30年8月28日発行  
編集・発行責任者 川越商工会議所青年部 副部長 情報発信室 山口 貴正
- 情報発信室  
幹事：奥富 将之/牛村 淳一  
石川 隆之/山田 義隆/松ヶ角 尚人  
栗原 弘志/岡田 勝也

# 鐘の音 Kane-no-ne

## 川越商工会議所青年部とは

平成18年(2006年)5月29日設立。川越に集う青年経済人に「互いの知性や感性を磨き合い、新たな発想や活力を生み出す場」を提供することを目的とし、次代の川越商工会議所と川越市経済界、そして埼玉県西部地域の更なる発展を推し進めていくことを念頭に活動をしています。



## 第55回交流会報告

南部地区担当の第55回交流会は、平成30年6月26日(火)、小江戸蔵里にあるレストラン「八州亭」にて、清酒出荷量全国第4位！酒処埼玉の日本酒を深く知ろう！をテーマに開催されました。前回のテーマが「ビール」、今回のテーマが「日本酒」と、お酒好きの交流会となりましたが、血気盛んな青年部、第一部、第二部とも80名もの会員の皆様にご出席いただきました。  
ご存知の方も多いと思いますが、会場に選んだ小江戸蔵里は、旧鏡山酒造の建築物を当時の面影を残しつつ改修し、川越の新たな名所として平成22年10月に誕生した施設です。また、本年3月10日にオープンしたきぎぎげげ照和蔵では埼玉産内35蔵の日本酒を飲み比べ

ができるコーナーがあり、まさに今回のテーマに相応しい会場だったと思います。

第一部では、蔵元さんによる日本酒を代表する3つの蔵元様をお招きしてパネルディスカッションを開講いたしました。パネルには、文久3年創業と歴史が古く、近年、シャンパン製法を応用した瓶内二次発酵による透明な発泡性清酒「菊泉ひよこし」を発売された滝澤酒造株式会社様、深谷市から滝澤英之様、ビールやワインも手掛け、国外からの評価も高い麻原酒造株式会社様、毛呂山町から糸魚川有紀様、平成19年創業ながら、旧鏡山酒造の伝統を受け継ぎ、蔵の街、小江戸川越を代表する地酒「鏡山」を造る小江戸鏡山酒造株式会社様、川越市から五十嵐洋様、以上3名の方に、登壇いただきました。

司会者席には、酒屋を経営する南部地区の株式会社マルケイトレーディング長堀真さんが着き、挨拶の後、さうそくパネルディスカッションが始まりました。長堀さんの軽快な進行によって、滝澤様、糸魚川様、五十嵐様が交互にマイクを握り、お酒造りの苦労や喜び、各蔵のPRポイント、今後の戦略などをお話いただきました。また、後半では京都などで実施されている「乾杯条例(日本酒で乾杯しようという条例)」、や「ボジョレー・ヌーヴォー」のような、解禁日の導入を検討してみたいとの議論がなされ、もしかすると埼玉県内の日本酒業界が大きく躍動する瞬間に立ち会ったことになったかもかもしれません。  
最後の質疑応答では、「できる大人を演出するためのスマートな日本酒の飲み方は？」という質問に対し、滝澤様より「飲み会の席で日本酒のつんちくを語らないこと」と深くご回答をいただいた。大喝采の中、第一部は終了となりました。

第二部開始までの約30分間、出席者の皆様には前述のきぎぎげげ照和蔵に移動して、日本酒の飲み比べを体験していただきました。人数の都合、全員が満足できる時間はとれませんでした。「地元川越にこんな施設があるんだ」と知っていたただく機会にはなつたのではないのでしょうか。  
続く第二部の懇親会では、「さいたま日本酒ナイト」と題し、蔵元様にもご参加いただいた、島崎相談役の掛け声のもと開会いたしました。乾杯はもちろん日本酒です。いつものビールでの乾杯とはまた違い、日本古来の蔵がな？乾杯となりました。蔵元様より、各蔵を代表する2種類ずつの日本酒を、提供いただき、賑やかに歓談タイムがスタートです。蔵元様と一緒にその蔵のお酒が飲めるとあって、いつも以上に日本酒が美味しく感じられました。味わいや味の違



利き酒にて酔る一同

い強く感じられたように思います。場も温まってきたところで、企画地区対抗 利き酒大会が始まりました。東部から萩原幹事、西部から久保田副部長、南部から飯野副部長、北部から長峰副部長、そして肥沼部長にもご参加いただきました。各蔵元様2種類ずつ、計6種類の日本酒を飲み比べていただきました。始まる前は余裕の表情を浮かべる方もいましたが、飲み比べが進むにつれ首を捻ったり、何度も飲み直して確認したり、皆、みるみる不安げな表情に変わっていききました。その後の答え合わせでは、並び居る酒豪をおさえ、ある日を境にお酒と決別したはずの南部飯野副部長が見事4種類正解にて優勝しました！ただ、会場からは「やらせ」ではないかと、あらゆる疑いの声も、こゝで改めて申し上げます。やましい事は何もありません！(忬度はあつたかもかもしれませんが…)。  
盛り上がりを見せた、「さいたま日本酒ナイト」は、次回、第56回交流会を担当する交流推進室の山本副部長の締めのお図をもって、惜しまれながらも閉会となりました。

私自身、これまで日本酒は付き合いませんでした。盛りに上がりをみせた、「さいたま日本酒ナイト」は、次回、第56回交流会を担当する交流推進室の山本副部長の締めの会図をもって、惜しまれながらも閉会となりました。

南部地区幹事 脇博喜

お酒について熱く語る部長



左から滝澤様、糸魚川様、五十嵐様



